

# ミャンマー訪問報告書

世界社会奉仕委員会  
委員長 大川 等

※日程 2013年2月7日(木)～10日(日)

## ※目的 ミャンマーヤンゴン市訪問

スータピン孤児院慰問

米の支援 過去の実績は5t(50k)100袋

お菓子の子供たちへの配布 全員対象 約1,400セット

文具類の寄贈

会員の支援で子供の衣類等持参し寄贈

歯科検診、将来的に留学生を受け入れる説明等

以上の予定で松岡会長、丸井幹事と共に総14名でミャンマー訪問を行いました。

2年ぶりに訪れたミャンマーの印象は僅か2年で驚くほど変貌を遂げておりました。まず町が明るくなった感じを受けました。これは実際にインフラの整備が進み電力供給が安定してきており街灯等の整備も進んで文字通り明るくなったのではありますが、同時に民主化が少しずつ進んで、他国からの進出、援助が増え、町全体に活気が出てきたと感じられました。以前には無かった道路の渋滞もヤンゴン市の中心部で数多く見られました。国全体の経済力の上昇と先進各国の数多い進出がその原因とおもわれます。

しかし、一方では日本には、それ程伝えられておりませんが、まだまだ、多民族国家特有の内戦が地方では発生しており、政府軍との交戦状態は続いておりそれによるなんみん孤児はは増え続けているようです。

今回のミャンマー訪問はアウンサンスーチー氏が軟禁を解かれ、どのように国が変わったいるか、そして又孤児院等に対する国からの援助等はどうなのかを見極めるのも一つの目的でした。

3泊4日の強行軍でかなり、日程的にはハードではありましたが2年ぶりに訪問したスータピン孤児院は前回400名程度の孤児の人数が、両親を紛争や病気で亡くした孤児が600名、親は健在ながら、貧しくて孤児院へ通って来ている子供が780名、その多さは、聞いてはおりましたが実際に見て大変驚きました。

アウンサンスーチー女史が2010年11月に軟禁が解かれ2011年には選挙が行われ、民主化が進み、国民生活の向上も窺えますが、残念ながら、まだまだ細かいところまで、支援が行き届かず孤児が増え続けている様です。その主な原因は多数を占めるビルマ族以外にカレン族、シャン族、カチン族、モン族、チン族、ラカイン族等の多くの民族がいる多民族国家で、今だにそれぞれの民族がシャン軍、カチン独立機構、カレン民族解放軍、ビルマ共産党のワ州連合等、武装した民兵や反政府勢力等が、表向き停戦はしているものの武装解除はしておらず何れの組織も独自の解放区を維持し続け衝突を繰り返しているようです。

USMA等シャン族の民兵組織は麻薬製造等までを続けており、中国から入手した高度な武器を装備しており、2009年にはこれらの民兵軍と政府軍が交戦状態に突入し、政府の軍事的圧力が再び強まっていると云われております。2013年1月現在国軍とカチン独立軍は交戦状態にあり、再びカチン州では難民が多く発生している状況です。その様な危険な部分も内に抱えておりマスコミ報道とは随分違うなと思う部分も感じられました、又、エイズ等の患者も多く、紛争、病気等が孤児が増える要因になっていると思われれます。ミャンマーは中国、ラオス、タイ、バングラデッシュ、インドと多くの国と国境を接しており、国境地帯での紛争もまだまだ少なからずあるとのことでした。

戦前はイギリスの植民地で、日本軍と呼応し独立しましたが日本の敗戦ともに再びイギリスの植民地となりその後独立は果たしましたが、永く軍事独裁政権が続き、国民は極貧生活を強いられました。北朝鮮等と同じ様に独裁政権下で世界の最貧国と言われてきましたが、仏教国でもあり穏やかな国民性の国ですか

今後日本との関係を強化し失われた数十年を取り戻して欲しいものだと願っております。今回の訪問で、当クラブの会員の協力により段ボール17ケースの衣類を持参致しました。暑い国ですから着るものは嬉しい様で子供たちは日本からの衣類を貰って嬉々としていました。持っていった我々もその様子を見てとても嬉しく思いました。又今回は松岡会長によって歯の検診を行いました。時間の許す限り数十人の子供たちを見ましたが90%の子供が虫歯になっているようです。歯ブラシを贈呈し、歯磨きの大切さの指導を行いました。



又北ロータリークラブ独自の留学生支援制度の説明を、当クラブの会員である香川大工学部三原教授によって行いました。高校生以上の孤児が小さな子の面倒を見たり、仕事に行ったりしながら勉強を続けております。日本の事に大変興味があるようで、目を輝かせてパンフレットを見ておりました。何時か将来この子達を日本で勉強させてあげることが出来たら良いなど、つくづく感じました。



\* 熱心に留学に関するパンフレットを見る子供たち

そして2年前に当クラブの赤瀬会員によって施設に寄贈した農地で年2回の米の収穫が出来ようになり、増えた孤児達の食糧に大きに役立っているようです。農地としてはまだまだ荒れているので年8t~10t程度の収穫だと云う事ですが今後、開墾が進めばもっと大きな収穫が期待できそうです。



\* まだまだこのような光景が多く見られます。



尚、同時に耕作用に寄贈した水牛は子供が2頭生まれ、計8頭になったと云う事でこれから開墾等で大いに役立ってくれることでしょう。

当クラブが10年前から支援を続けた結果、子供たちも成長しミャンマーの国自体も大いに変わろうとしております。

微力ではありますが継続の大切さを今回の訪問で我々メンバー全員つくづく感じた次第です。

今後も当クラブの事業として継続し、日本とミャンマーの友好に少しでも貢献し、又支援した孤児院の子供たちの成長を見守っていきたいと決意を新たに致しました。



\* 提供した文具と少し大きくなった子供たち



\* 孤児院の僧正との記念撮影



\* 小さな子も沢山います(子供の時から出家した子も沢山おります)



\* 大きくなった孤児院の子供たちと親しく談笑





\* 寄贈した文具類、米及び日本から持参した衣類タオル等



\* 当クラブメンバーとの記念撮影



\* 衣類やお菓子をもらって合掌して感謝を表すミャンマーの孤児達



\* 生まれた子牛



\* アウンサンスーチーさんの自宅前

